

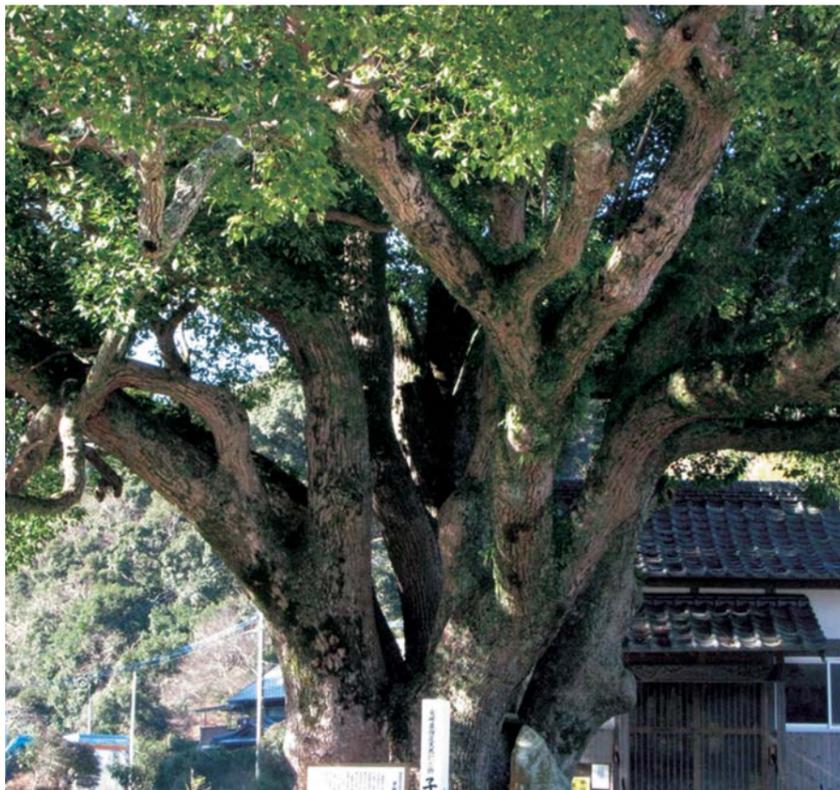


厄よけの神木・県指定天然記念物

子安観音の大クス

樹齢400~500年になると伝えられ、伝説では、数百年前にこのクスノキを伐採したところ疫病が大流行したため、厄払い祈願を行い、厄病よけの神木として地元の人たちから大切に保護されてきました。地上から2.5mのところから7本の太枝に別れているのは、伝説のとおり一度伐採されたものではないかと言われています。根回り14.65m、幹周り7.6mあり、周囲の環境が良く、樹勢も盛んで青々とした葉が繁っています。

所在地 有福町・子安観音内
「有福」バス停下車徒歩10分



空に向かう巨木と海に向かう巨木

三本木地区の地名の由来

矢保佐神社のムクノキ

柚木町の三本木地区に立つ矢保佐神社。地名の由来になっているのが、境内にあるムクノキです。空に向かって大きく枝を広げた姿は遠くからも一望できます。樹齢数百年とも言われる3本の巨木があったことから、三本木の地名が付けられたそうですが、今はこの1本が残るだけ。斜面にどっしりと根を張り、幹周り約5m、樹高約20mとまさに巨木。芽吹きが時期が待ち遠しい1本です。

所在地 柚木町
「柚木」バス停下車徒歩5分



海に向かう稀有なエノキ

古里のエノキ

ムクノキやエノキなどニレ科の樹木は幹が直立し、高さ20m以上になるものが多い中、このエノキは陸から海に吹く風の影響なのか、根元1mほどのところから海に向かって幹を伸ばしています。もともとは防風林として植えられたもので、20mほど離れた場所に残るエノキは幹を真っすぐ上に伸ばしています。古里が船着場としてにぎわっていた昔は、この木が目印となり、木の下は集会場にもなっていたそうです。

所在地 針尾東町
「古里」バス停下車徒歩10分

